

対象団体：安城生涯学習まちづくり企画人

A. 事業内容

【事業名】	『三河創年塾 で・や・い』		
【事業分野】	生涯学習	【協働の形態】	事業共催
【行政担当課】	教育委員会生涯学習課	【協働のパートナー】	

【事業概要】

安城生涯学習まちづくり企画人（以下、企画人）が企画・運営し、長年続いている講座。安城市（教育委員会生涯学習課）の市民企画講座に応募し、市と協働で実施することが多い。

超高齢社会がもたらす様々な課題に対し、当事者であるシニア世代の人々が、自分に何ができるか、何をしたいかを考え、主体的に活動を行い、地域の課題や市民共通の問題を自立的に解決できることを目指す講座。市民の仲間作り・つながり作りまでサポートし、実際に行動できるようにすることを目標とする。

平成 24 年度までに開催された『三河創年塾 で・や・い』の概要

年度	テーマ・講座数・講座内容
16 年	＜第 2 の人生を力強く生きる＞ 全 9 回 「余生といわれる過程をどのように過ごすか」というシニア層にとっての命題を、いくつかの切り口から受講生で共に考える講座を企画・開催。
17 年	＜むーぶ「みんなで創年」＞ 全 5 回 定年後の地域デビューを地域振興・ボランティアの事例から考え、ワークショップで「第二の自分探し」を行う。その他、老後の生活設計に関する講座も開催。
18 年	＜'06「創年」力＞ 全 5 回 「自分を活かす」ことについて、地域防災・ボランティアの事例から学び、活動の仲間作りを行う。その他、セカンドライフとお金に関する講座も開催。
19 年	＜どっこい出番はこれからだ＞ 全 6 回 福祉のまちづくり等の様々な地域貢献を事例で学び、現場見学で体験。自分たちに何ができるかを考えるワークショップ。歩き方講座や老人福祉施設の紹介も開催。
20 年	＜チャレンジ！シニアライフ＞ 全 6 回 防災ボランティア・認知症サポーターといったボランティア活動と絆づくりをテーマに開催。その他、健康づくりのための施設見学も実施。
22 年	＜今、シニアライフのリスクを考える＞ 全 6 回 シニア世代のリスク対処について「自分史語り」「旅行」「アンチエイジング筋肉強化」等の切り口から講義を受け、解決のためのつながりづくりを行う。
23 年	＜シニアの心得 その 1＞ 全 6 回 シニア世代のリスク対処について「こころの老い」「成年後見」「姿勢・整体」「減災」等の切り口から講義を受け、自分への自問自答と想いを共有する交流会を行う。

24 年	<これからのシニア・ライフ “ステージはこのまち” > 全 6 回 自らが気付き・動くことで、まちの魅力発信・課題解決ができることを目指す。ワークショップを中心に構成。※「安城市シニアライフリーダー養成講座」として開催
------	---

※平成 21 年度は「生涯学習ボランティアコーディネーター養成講座」を創年塾の代替として開催

【背景・きっかけ】

安城市は、平成 7 年より生涯学習を活かしたまちづくりの人材を育成しようと講座を開催し、平成 9 年にはボランティアを委嘱することを目的として「生涯学習まちづくり企画人」を募集。受講生を中心に、市民 15 名が市長から委嘱され「安城市生涯学習まちづくり企画人」として活動を開始した。当初「まちづくり」「福祉」等の各分野の活動を束ねた団体という性格が強かったが、平成 14 年に市と「生涯学習まちづくりリーダー養成講座」を開催、修了者から新たなメンバーを加え、組織を充実し、「生涯学習分野の中間支援団体」の特徴を強く持つようになる。この頃、名称から「市」が外れ「安城生涯学習まちづくり企画人」として独自の活動を発展させていくことになった。

元々生涯学習が推進されてきた背景には、超高齢社会の様々な課題を解決するという目的もあった。団塊世代を含むシニア層に、その経験を活かして課題に対処してもらい、社会の下支えとなってもらいたいという社会の要請と、会社勤めでできなかったことを実現しながら、社会への責任を果たしたいという個人の要望への対応が、生涯学習には期待されていた。企画人ではそれらを踏まえ、シニア層向けに地域活動におけるリーダー人材の養成を目的として『三河創年塾 で・や・い』（以下、創年塾）を企画した。事業名には「地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人（中高年）」を指す言葉として福留強氏（NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会理事長）が提唱する「創年」をタイトルに戴いた。

第 1 回は平成 16 年に市との協働講座として開催され、大きな反響があった。ただ勉強するだけでなく、人との「出会い」の場を作り、実際に活動を開始することで、やりがい・生きがいにつなげることが重視された（で・や・い＝出会い・やりがい・生きがい）。団体としても継続実施の方針で「今後重点的に取り組んでいく予定の講座」として位置づけた。

一方、市は第 2 次安城市生涯学習推進計画（平成 17～26 年）において市民主体の生涯学習をより推進させることを掲げ、その施策の一つとして「市民企画講座」が設けられた。これにより、企画・立案や事業運営を団体自らが行う協働（事業共催）のしくみが整えられた。

【プロセス・役割分担】

①市との協働の選択

創年塾は市と協働実施することでより効果を発揮する。そこで活用したのが市の「市民企画講座」である。市民企画講座は、学びたいことや取り組んでみたいことを、団体自らが企画・運営する講座であり、団体にとっては、柔軟な発想やこれまで培ってきた経験を活かすことができる制度である。企画人にとっては、市が支援するため安心感があり、思い切った内容の講座ができるという面もあるとのことである。

市は応募する団体に対して、社会情勢の変化によって発生した現代的課題（防災・減災、防犯、高齢化社会、男女共同参画型社会、まちづくり、環境等）を取り上げ、受講者がその課題等を自身の問題として認識し、理解を深める内容の講座であることを求めている。

企画人は第2回以降、この制度を活用して創年塾を開催している。

②「市民企画講座」の概要説明（平成25年度の場合）

I. 応募から実施の過程

市民企画講座の実施過程は以下のとおり。（担当課：生涯学習課）

i) 企画募集	市は年度を前・後期に分け、半期毎に5講座程度講座の募集を行う。
ii) 応募・選定	応募団体は申請書・企画書を作成し申請、市は団体にヒアリングを実施し採択講座を決定。
iii) 広報	広報活動は団体が行う。市は生涯学習情報誌「あんでな」による広報、チラシの印刷・配布に関する協力を行う。
iv) 受講者募集	募集受付は市が行う。
v) 講座実施	団体が主体的に行う。市は企画・運営に関する助言を行う。

II. 講座実施における役割分担

団体は、講座内容の企画・立案、講師選定・依頼・連絡調整、広報活動、講座の実施・運営を担う。一方、市は以下の支援を行う。

i) 講師謝礼・消耗品・会場使用料等のうち市が認める経費の負担（1講座20万円まで）
ii) 安城市生涯学習情報誌「あんでな」による広報
iii) チラシの印刷・配布に関する協力（原稿は団体が作成）
iv) 講座の企画・運営に関する助言
v) 活動・講座準備のための場所の提供（生涯学習ボランティアセンター）

③講座プログラムの企画

「市民企画講座」の企画応募に先立って、企画人メンバーによる協議が行われ、プログラムが作成される。創年塾は、「シニア層に対する役割の自覚を促す」「活動の立ち上げ期のサポートをする」といった、代表・草薙氏の強い思いがプログラムの大本にある。そのため、塾が仲間作りの場になるとともに、受講生が地域社会における活動のリーダーとして、「自分の思いや実現したいことを他者に伝えられる力」「動き出す力」を引き出せるよう、座学だけではなく現地見学やワークショップといった形式を多く取り入れている。しかし、その後の活動を強制するものではなく、あくまで「意識付け」に力点が置かれた内容となっている。

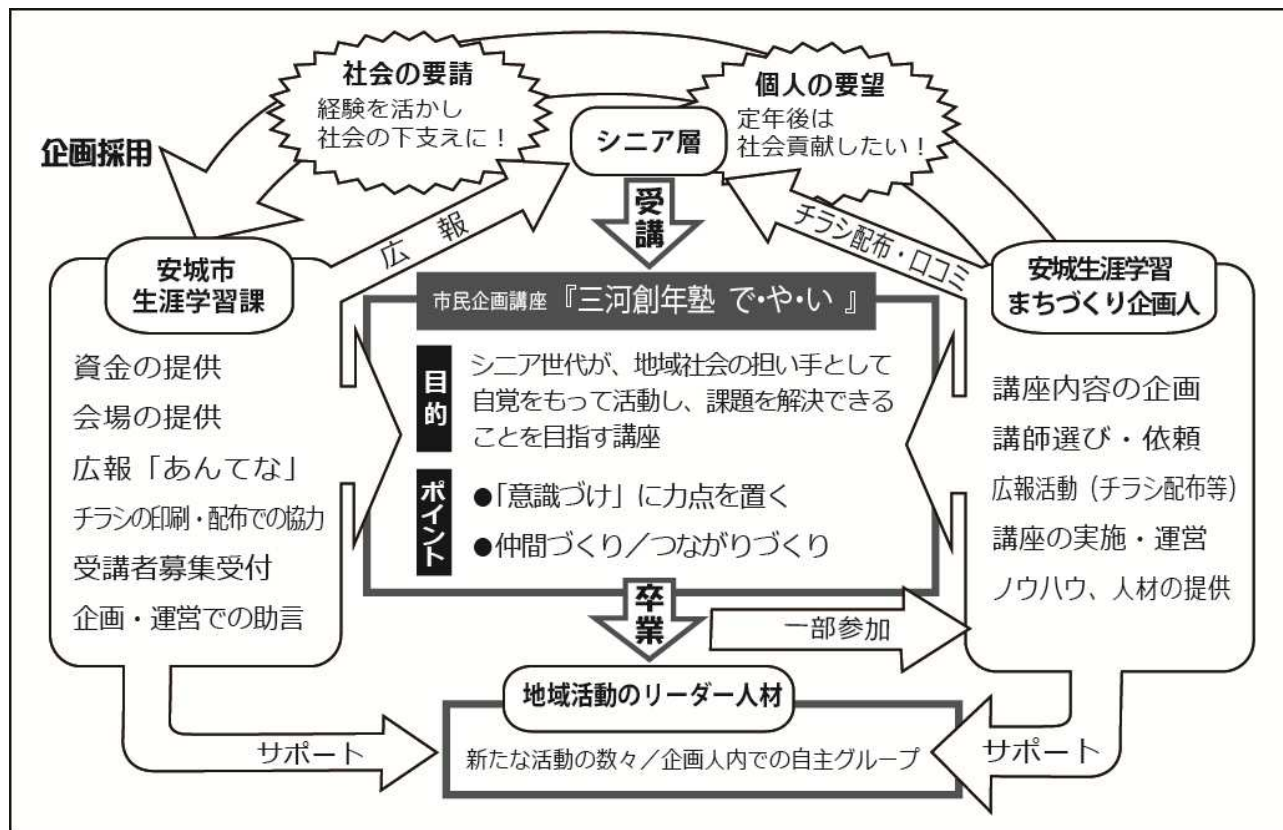
④実施後の受講者へのサポート

講座実施に伴い、受講者への対応、特に講座実施後のサポートも重要になる。事業内容には入っていないが、何かしらの活動を始めたいという希望者に対しては、その立ち上げを支援することも企画人は役割として自覚している。市としても募集段階から、受講後、受講者が市民活動団体に参加する・学習グループを作る等の考慮をすることを求めている。

これまでは、まず企画人のメンバーになってもらい事業にスタッフとして参加してもらう形でサポートをしていることが多い。その中でやりたい活動が形になりそうなら、団体内で協議をし、企画人の企画として実施していく。そのままスタッフとして残る人もいるが、自分で動き出せる人・やりたいことが明確な人の場合、ノウハウを学び、仲間との関係ができると、企画人から卒業して、独自の

グループで活動を継続する人もいる。

年度によっては事業終了後、受講者と市が協働で活動をしていくことが予定されている場合もあり、これは市が活動のサポートの役割を担ったといえる。(平成 24 年度の安城市シニアライフリーダー養成講座では、終了後希望者は「安城市シニアライフリーダー」として活動している。)



【効果・課題】

シニア層を直接の対象にして、「シニアとしての社会における役割・責任を自覚する」といった提言をしている講座であり、市の支援でこの講座を実施することにより、市全域にその提言を発信し、呼応者に講座へ参加してもらうこと自体が一つの効果と言える。

受講者に対しての「意識作り」についても成功しており、受講者の中から自主的にグループが誕生し、活動へと波及している。現在も、創年塾受講生が始めた、地域課題を自立的に解決することを目指す活動が、市内でさまざまに進展している。

一方課題としては、講座の内容の一層の向上が上げられる。現在の創年塾の講座は幅広い分野にまたがって実施できているが、団体としては総花的な面があるとも考えており、より個々の受講者の力を引き出すことができる、深みのある内容の講座を開催したいという目標を持っている。また、受講者募集の課題としては、50 代後半の人・女性・熱い思いのある人にもっと講座へ参加してもらいたいと考えているが、常に苦心をしている。

B. 団体プロフィール

【団体名】	安城生涯学習まちづくり企画人				
【法人格の有無】	無	【設立時期】	平成 9 年	【会員数】	17
【活動地域】	安城市	【ホームページなど】	http://kikakubito.cms.am/		

【目的】

個性豊かな学びの場を創出し、そこに集う人々（企画する人・運営する人・参加する人）が、学ぶことによりつながり、充実した市民生活を送ることをサポートすることを目的として設立された。

以下の思い、こだわりを持ち、活動している。

1. 生涯学習を通したまちづくりをボランティア精神で企画し推進します。
2. 学習とは新しい発見でありわくわくするものです。楽しく学習（楽習）しましょう。
3. 見て!聞いて!触れて!体感する。安城にこだわった特色ある学習を進めます。
4. 子育てを終えた夫婦、定年退職者等の第2の人生を力強く生きる学習を進めます。
5. 学習効果を発揮する場を創造しふれあいのあるまちづくりを進めます

※上記のような場の創出・活動のサポートを明確に目的に掲げ活動していることを以て、事業の説明の中で「中間支援的」と表現している。）

【主な事業】

自主事業または市や他の市民活動団体との協働事業として、様々な分野で生涯学習に係わる講座・イベントを行っている。シリーズ企画もしくは団体内自主グループの活動として実施しているものとして、以下の様な事業がある。

シリーズ名・グループ名	活動内容
①三河創年塾	当事例、事業概要を参照
②安城ふるさとガイドの会	歴史を土台にした安城市内の観光ボランティアガイドの派遣・養成を行っている。モデルコースや冊子を用意し、ガイドを希望する観光客に対応している。
③昭和の語り部・あんじょう	安城の昔の出来事・暮らし、特に災害の経験を子どもたちの世代へ語り継ぐ活動を行っている。同時に昔遊びのおもしろさも伝える。 (平均年齢 73 歳)
④「三河創年塾塾生会」耕し人	市民が農に親しみ、心と体の健康増進と世代間交流を図るため、美味しく安全な野菜づくりの体験・支援を行っている。(メンバーも元は農業未経験者)

C. 協働ココが大事

【協働のポイント】

①協働相手との十分な意思疎通

- ・協働事業では協働相手との意思疎通が非常に重要であるが、企画人と市（生涯学習課）の間には、本音で素直に話し合える関係が築けており、意思疎通が十分できている。
- ・市（生涯学習課）が組織として聴く姿勢と風通しの良さを持っていること、担当者が変わってもその組織風土が変わらないこと。また、企画人側も市の立場（中立性・平等性）を理解した上で、構えずに言うべきことを言うようにしていること。このことが、うまく関係を築けてこられた理由である。

②関係を作れた人たちとのネットワークを活かす

- ・これまで協働事業をする中で関係を作ってきた人たちとのネットワークが、その後の活動につながる。具体的な事業の中での連携でなくとも、その後の事業の側面からのサポートになる。
- ・創年塾OBが様々な分野の活動をしており、その中には市との協働を必要とする人もいる。一方で、創年塾に関わった市職員が、異動により様々な部署にいるのは、OBが活動を発展させていく上でも心強い。

③団体としての強み・長い実績に自負を持つ

- ・企画人は「生涯学習分野に特化した中間支援機能」を特徴とし、その面でのノウハウを培ってきた。協働相手も、その強みを十分理解しているため、関係の蓄積がうまくできてきたし、事業の継続にもつながっている。それが団体と創年塾の長年の実績と活動に対する自負にもなっている。

【団体からの一言】

私たち生涯学習まちづくり企画人が活動開始してからの16年のあいだに、社会のありようは予想よりはるかに大きく変わりました。少子高齢化は急速に進み、それに伴い家族のありよう・経済の先行きの不透明さなど、私たちが概念として持っているものでは判断できないほどに変化してきました。さらに氾濫する情報は私達の不安感を高めています。このように急速に変化し、拡がりつつある社会に適応するためには、私たち市民の個々の資質の向上が必要であると考えます。生涯にわたり学習することが定着することにより、自ら考え行動する社会人の繋がりができ、住みよい「まち」が醸成され则认为、活動しています。

【あんねっとからの一言】

生涯学習の分野では、市が市民協働を施策として推進する以前から、市と市民活動団体がお互いの強みを補完し合って講座やイベントの企画運営をしており、団体の自主・自立の尊重、対等の関係を重視した事業が行われてきました。市民企画講座はその典型的な事例であり、安城生涯学習まちづくり企画人の「創年塾」は目玉企画の一つとなっています。

企画人は生涯学習分野における中間支援的な役割を果たすという明確な団体の活動理念があり、それが事業目的・内容にも反映されています。毎回テーマを少しずつ変えながらも、「シニア層に対する社

会での役割の自覚を促す」「活動の立ち上げ期の支援をする」といった一貫した姿勢を持っていることが、この事業が継続している理由であると思います。

協働事業としては講座の実施までですが、その後のサポートによって初めて事業目的が達成されることが、またサポートする実力が団体にあることを市側も理解していることが見て取れ、役割分担がうまくっている協働事例であると思います。

以上